



・1列になって滝を目指一行



・レクゲームを楽しむ子どもたち



・魚釣り体験の前に仕掛けづくりの講習



・食事でも野外を想定してシートを敷いて



・全員寝袋で就寝しました



・閉会式で教育長は「感謝の気持ちを忘れずに」と講評



・くろくまの滝を全員で征服

「一人は皆のために
皆は一人のために」

チャレンジキャンプ2012
鶴田町ジュニアリーダー研修会

チャレンジキャンプ2012 鶴田町ジュニアリーダー研修会

— 子どもたちの心が一つになる瞬間 —

天気は左右される研修会

10月6日(土)～7日(日)、1泊2日の行程で、公民館を主会場に、鶴田町教育委員会・鶴田町子ども会育成連絡協議会(中村琢司会長)共催「チャレンジキャンプ2012・鶴田町ジュニアリーダー研修会」が開催されました。

今年の研修会は、小学生23人、中学生11人、高校生および指導スタッフ28人、計52人の参加者で行われました。

小学生は、ジュニアリーダーを目指して、中学生は、ジュニアリーダーとしての経験を積む研修として、経験豊富な高校生は子どもたちを束ねる指導員として、それぞれの目的を持って参加しました。

研修会初日は、くろくまの滝キャンプ、白上キャンプ場での野営など



・キャンプ物資を手渡しリレーで公民館へ搬入



・調理を丁寧に指導をする高校生リーダー



・男子によるワイルドな料理がスタート



・夜のゲーム研修ではよさこいソーランを踊る

公民館での活動は、キャンプ場で行われる活動と同じ内容で行われ、ゲーム研修、調理体験、電気を消灯してのレクレーション活動、宿泊する室内をテントに見立てて寝袋での就寝と、野外を意識し、あまり電力を使用しない内容で行われました。

2日目の朝からは、新深浦漁港（大戸瀬漁港）での漁業研修と魚釣り体験が行われました。

漁業研修では、新深浦漁協の松下販売課長が、港内にある荷さばき場で、朝水揚げされたさまざまな魚やこれから水揚げされる魚などを説明してくださいました。そして販売課

さまざまな研修会が鯨ヶ沢町赤石川周辺で行われ予定でしたが、くろくまの滝の散策を終えたあと現地が豪雨に見舞われ、白上キャンプ場の野営はあえなく断念、場所を公民館に移しての宿泊研修になりました。しかし、今回のメインの研修である「くろくまの滝散策」は無事行うことができ、研修の目標はクリアすることができました。



・魚釣り体験、フグが多くお目当てのアジが釣れず



・本マグロの水揚げを見学（新深浦漁港）



・漁協販売課長からの魚種の説明

長は「海水温がまだ高くて、この時期と獲れるサケがまだ揚らず、まだ夏の魚が獲れています」と最近の漁業事情を教えてくださいました。課長が述べたとおり、この日の午前中、この時期にはめずらしい大量の本マグロの水揚げを見学することができました。

魚釣り体験では、ほとんどが参加者が魚釣りをするのが初めてということで、釣りの前に仕掛けの作り方を全員で学びました。魚釣りの方はお目当ての小アジがまだ海水温が高いためあまりおらず、釣れるのは小さなフグばかりと期待はずれでしたが、初めて釣りをする参加者たちは小さなフグを釣るたびに一喜一憂していました。

最後に今回の研修会は、初日の雨天により、会場が公民館での活動になりましたが、気象に左右されるは自然体験の中では仕方ないことです。研修会は過去にもさまざまな悪天候を経験していますが、ここに参加した児童たちはどのような悪条件でも順応していこうとする姿が見られ、最後まで弱音を吐くことなく頑張っていました。子どもたちは、この経験を生かし、おそらく災害時のときも決して弱音を吐くことなく、順応していこうとしていくはずです。そして条件が悪くなればなるほど子どもたちは一致団結して何事も協力して行おうとします。またそこには深い友情が生まれます。

今後、この子どもたちが町の将来を担うとき、この研修での体験がきっと役立つときがくるはずですよ。



小笠原教育長を囲み全員で記念写真

チャレンジキャンプ2012
鶴田町ジュニアリーダー研修会



・最後にジュニアリーダーの証となる修了証を手渡される